７月号他ページの主な記事

2面　ブラジルご奉公記、権大僧正・加藤日識上人がご遷化
3面　1支・大津佛立寺　門祖550回御遠諱記念法要を講有巡教で
4面　5支・東京常磐布 ファミリー御講、4支・法正寺の社会福祉募金
5面　1支・京都布 佛立チャレンジ、6支・埼玉布 みんなの集いを開催
6面 7面　「門祖日隆聖人550回御遠諱 記念大法要」　参詣風景 参詣の声
8面　門祖550回御遠諱本山記念大法要　前座御法門
9面　私の教化ご奉公：5支・照妙寺 岩波誠氏
10面　大法要参詣の声　木野田典昭氏、黒石初子さん
11面　スリランカ開教15周年記念団参のご案内、ニュース・アイ
12面　門祖日隆聖人物語⑲、記念大法要復興支援バザー

本門佛立宗機関紙
佛立新聞
THE BUTSURYU SHIMBUN

平成25年7月1日発行
発行所
本門佛立宗宗務本庁
京都市上京区御前通一条上る東堅町110番地（〒602-8377）
電話（075）461-1166（代）
振込口座　京都18650
発行人　澤田日松　／　編集人　橋口清遠
購読冥加料　一部50円

ハワイ別院三祖会を厳修
講有巡教として100名を超える団参！

御法門を説かれる講有上人

去る五月十九日、ハワイ別院にて講有巡教が営まれた。これは昨年十一月の韓国布教区に続き、山内日開上人が佛立第二十五世講有就任後、二度目の海外巡教となるもので、当日は雨の予報を覆す晴天のお計らいを頂戴し、日本からの百名を越す団参者とともに、三祖〔日蓮・日隆・日扇各聖人〕報恩の口唱の声が別院に響き渡った。

前日十八日にハワイ入りされた御講有上人は、到着された空港から直接ハワイ別院へ向かわれ、まずは安着のお看経。引き続き、ハワイアンメモリアルパーク墓地内にある、佛立宗の納骨碑前でご回向をされた。

法要当日、本堂には日本からの団参者と現地のご信者が数多く参詣し、晴天のもと異口同音に御題目口唱の声が響き渡った。御法門前には、今後のご弘通ご奉公のための資金、弘通交流費の下付が行われ、長谷川日堯プレジデント（住職）と植田静代事務局長が拝受された。同時に、この度の団参当番支庁・第二宗務支庁一同からのご有志も、代表の支庁長・蔭山淳和師より手渡された。

続いて植田日事弘通局長、長谷川日堯プレジデントによる挨拶が行われた。植田弘通局長は、近年宗内の海外弘通が急速に発展する理由として、インタラクティブ（相互作用のある）でスピーディな情報交換が可能になったことが挙げられ、今後のハワイ別院ご弘通のためにも、この度の日本からの参詣者が何か相互に良い影響を及ぼすべきであると語りかけられた。

常夏の国に咲き乱れる花々のように、平成二十九年の開導聖人ご生誕二百年に向けた佛立開花運動に掲げる「お教化の花、正宗徒増加の花、役中育成の花」を、帰国後に咲かせようではないか、と述べられた。

長谷川日堯プレジデントは別院の歴史に触れられ、その建築物はもともとハワイ王国第四代国王・カメハメハ四世の妃、クイーン・エマのサマーパレス（避暑地別荘）であり、その侍従の住まいでもあったと紹介された。

最後に御講有上人より「たのしみや今の心が菩薩ならば　未来は仏うたがひもなし」との御教歌で御法門が説かれ、役者というのはいろんな舞台で様々な役を演じている。現世において人間という役柄を演じている我々佛立信者は、上行所伝の御題目を我も唱え、人にも勧める佛立菩薩行に精進し、未来は役が仏に変わらなければならないと語られた。

法要後には別院より参詣教務・ご信者一同に昼食の御供養が振る舞われたが、その際、御講有上人は法要開催の知らせを聞きつけた地元新聞記者による突然のインタビューを受ける場面もあった。

最後に記念撮影が行われ、華やかなハワイ別院三祖会は無事終了した。

植田日事師の挨拶

ハワイ別院の本堂で記念写真を撮る清風寺の皆さん

第2支庁　ハワイ団参記

ハワイ別院の境内で第２支庁団参の皆さんと

去る五月十九日、ハワイ別院にて講有巡教が奉修され、第二宗務支庁から教講九十五名が参詣をさせていただきました。

十八日、関西国際空港にて結団式を行い、日付変更線をまたいで、同日の朝にハワイに到着しました。日中はホノルル市内の観光をして、夜は御講有にもご参加いただき、ハワイ別院のご信者さんとの交流会がもたれました。最初は一同緊張した様子でしたが、御講有の「アローハ！」というご挨拶で、一気にその場の雰囲気が和みました。

途中、岡居日実弘通部長より、信光寺の上村繁さん・美江さんご夫妻がハネムーンとして団参に参加されたとの紹介があり、参加者一同でお祝いをしました。

御会式当日は快晴で、ハワイ別院の参詣は初めてという方も多く、みなさん気合いの入ったお看経で、本堂は熱気に包まれました。御法門前に、第二支庁管内各寺院のご信者よりお預かりした弘通後援ご有志（二百八十六万二千円）を、蔭山淳和支庁長が代表して奉納させていただきました。

信光寺の上村さんご夫妻

御会式終了間近にスコールがあり、思わぬ待機時間ができ、別院の御宝前で自由に記念写真を撮ることができました。

二十日・二十一日は思い思いのハワイ観光を楽しみました。ある現地ガイドさんから、私たちの仏丸のついた鞄を見て、「このシールは時々見かける、迷路のようだね」と声を掛けられました。そのガイドさんは、以前にもご信者を案内したことがあり、そのときに佛立宗のことを覚えたそうです。こんな所にもお教化の種があるのだと感心しました。

最終日の夜は団参者全員で、ワイキキ人気ナンバーワンのイリュージョンショー「マジック・オブ・ポリネシア」を鑑賞しました。マジシャンのジョン・ヒロカワ氏は日系三世で、片言の日本語を使い、私たちを笑わせてくれました。

特筆すべきは、清風寺の古元一さんが舞台に呼ばれたことです。世界中から来ている観光客の前で、関西人ここにあり！というユーモアセンスをたっぷり見せてくれました。おかげで思い出に残る楽しい夜となりました。

二十三日夕方、無事に帰国。いつの間にかお寺を超えてご信者さん同士の絆ができていたようです。病気や事故もなく、全員が帰山・帰宅できたことを御宝前に感謝いたします。

（安国寺・宮武品子記）

弘通交流費を下付される長谷川住職と植田局長

来る7月14日
本山開導会奉修

来る七月十七日は、佛立開導日扇聖人の御祥月御命日。本山宥清寺では十四日、三座にわたって御正当会が奉修される。開導聖人は、安政四年に本門佛立講をご開講せられ、高祖門祖の御正流を今の私たちにお伝え下された。お互いに、報恩の参詣をさせていただこう。

１・３支が参詣当番

座	奉修時間	奉修導師
第１座	7：00～8：00	講　尊　梶本日裔 上人
第２座	9：00～10：00	講　尊　小山日誠 上人
第３座	11：00～12：30《宗門式典》	講　有　山内日開 上人

一言

これまで五千人以上が見学に訪れたという大阪の町工場・枚岡合金工具（金型製造・昭和二十四年創業・社員数二十四人）。技術力の高い同社は創業以来ずっと黒字を続けてきた▼しかしバブル崩壊後に赤字に転落。打開策として取り組んだのが「整理・整頓・清掃」の３Ｓ運動。この３Ｓ運動の導入で以前は３Ｋ（きつい・汚い・危険）職場の典型だったのが、見違えるほど美しい職場となった▼また、社運も向上し業績も見事に回復。例をあげれば旋盤用のドリル。以前は必要なサイズを探すのに三十分以上もかかっていた。この三十分に年間の仕事日数を掛けると、何と約一ヵ月分の就業時間に相当する▼つまり一年間に一ヵ月もの時間をムダに浪費していたのだ。そこで整理用の棚を用意し、ドリルのサイズを表示し順番に並べた。するとドリルがすぐに取り出せ生産性が大幅に上がった▼同社の古芝社長は「自分の身の回りに、放置したままになっている問題やムダはありませんか？」「日頃から場を整え、常に問題意識をもっていれば、巡ってきた運にすぐ気づく」と語る▼大切なことは、日々の中で気になることがあればすぐに改善する。気づいたらすぐに着手するということが運やチャンスを掴む大きな秘訣なのだ。開導聖人も御教歌に「そろそろと改良すとはおもふなよ闇にともしび得たるごとせよ」とお示しである。

今月の宗門行事予定

1日　国民安全の日　安全週間　海開き　山開き
7日　小暑　七夕
8日　十界の大曼荼羅本尊ご始顕
10～11日　第二〇三回臨時宗会
14日　本山宥清寺開導会（宗門総回向料第一回奉納式）
29日　開導聖人大津ご法難記念日

7月のこよみ

16日　立正安国論進献
文応元年、高祖聖寿三十九歳の七月十六日、打ち続く困難の由来は邪法邪師によるもので、正法正師につき、大法弘通、法華唱題によるべきだと、経文を引証され、最明寺時頼へ献策せられた。

17日　佛立開導日扇聖人ご遷化
明治二十三年七月十七日、大阪玉江組の秦氏の招きにより、伏見より、玉江組で新造した三十石船にお乗りになり、下阪の途中、淀川堤の守口村森田伊六の茶屋（現守口義天寺）にお上りになり、奥座敷で暑気をさけ夕刻までご休息された。次の間にお供のものが控えてお待ちしていたが夕暮、涼も増したので奥の間の聖人をお起こし申し上げようと御枕元近くに伺うと、すでに聖人は安らかに御寝のままに遷化されておられた。時に午後五時二十五分という。聖寿七十四歳。

15日　海の日
21日　報恩抄ご撰述
建治二年三月、旧師道善房の死去に伴い、高祖聖寿五十五歳の七月二十一日、追善のため、報恩抄二巻を作ってその墓前にささげられた。

22日　土用の丑の日
29日　大津ご法難
かねて日扇聖人の大法弘通に脅威を感じていた大津六十四ヵ寺の僧侶は、連合して京都府に「清風といえるもの、キリシタンの邪法をつかい、諸人を狂惑する」と訴えたがために、算盤屋浅井安兵衛宅へ入信のものと偽って聖人を呼び出した捕吏は、山城と近江の国境で難なく召し捕り、京都へ送り、千本通り六角の西の本牢に投獄された。これ第一の法難。時に慶応四年七月二十九日、聖人五十二歳のこと。

宗門ではこの日を記念して、多くの寺院で口唱会あるいはお助行を展開して報恩の誠をささげている。